

展示室1 異国情緒を描く

人は未知の世界に心惹かれるものですが、西洋人は古くから東洋に大きな関心と憧れを寄せてきました。美術の分野では、18世紀になるとトルコ趣味（テュルクリ）や中国趣味（シノワズリ）の人気が高まります。そして19世紀末には、日本の開国をきっかけとして、日本趣味（ジャポネズリ）の一大ブームが西洋諸国に巻き起こりました。

そのような歴史を土壌にして制作された、東洋趣味を取り入れた作品、来日画家が日本の風物を描きとめた絵画、そしてさらに遠くの国々を題材とした書籍を展示します。描き手が異国のどこに感興を覚えたのか、当時の情景と画家の視線へ思いを馳せてお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
バーナード・リーチ	北京の前門	1918	ソフトグランドエッチング・紙
バーナード・リーチ	家	1912	エッチング・紙
チャールズ・ワグマン	北京風景	1860	水彩・紙
ロバート・ギビングス（画・刻）	『トンガ純愛実話』	1935	木口木版／本
ロバート・ギビングス（画・刻）	『珊瑚礁を越えて』	1948	木口木版／本
エリック・ウィリアム・ラヴィリアス（画・刻）	M. アームストロング『砂漠、伝説』	1926	木口木版／本
グヴェンドレン・メアリー・ラヴェラ（画・刻）	H.A. ウェッジウッド『東洋奇譚』	1939	木口木版／本
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	赤羽、芝公園の一隅	1891	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京、麻布	1891	油彩・板
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙
サー・アルフレッド・イースト	雨の湯本	1889	水彩・紙
サー・アルフレッド・イースト	雨後の傘干し	1889頃	水彩・紙
バーナード・リーチ	立杭		コンテ・紙
バーナード・リーチ	きこり		油彩・紙
チャールズ・ワグマン	水汲み		水彩・紙
チャールズ・ワグマン	物売り		水彩・紙
チャールズ・ワグマン	若い女		水彩・紙
チャールズ・ワグマン	座る日本女性		水彩・紙
チャールズ・ワグマン	ふたりの日本女性		水彩・紙
サー・フランク・ブランギン	花園	1899頃	油彩・板
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス

展示室2 旅する南薫造

明治末から昭和にかけて日本の洋画界に確かな足跡を残した南薫造の画業の展開には、旅が深く関わっています。1907（明治40）年、南は「水彩畫が見度かつたので、先づ英國」のロンドンに留学しました。そこでターナーやホイットラー、ラファエル前派といったイギリス美術にくわえ、博物館で古代美術を研究しています。

次なる外洋への旅は、1916（大正5）年のインドでした。留学時代からインド美術を模写していた南にとって、待望の旅だったでしょう。約40日間にわたるインド滞在で10都市以上を訪問し、精力的に写生を行っています。

以降も、4度の朝鮮半島訪問や、台湾と中国への渡航など、官展の審査員や従軍画家としての公務がきっかけの旅を重ねました。今回は、新収蔵品を中心に南の海外での旅路をたどります。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
サー・エドワード・コーリー・パーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	早朝	1878	リトチント・紙	
南 薫造	パーン=ジョーンズ作「水車」模写	1908(明治41)	油彩・キャンバス	
南 薫造	農村風景	1909(明治42)	水彩・紙	
南 薫造	舟を曳く馬	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	農作業	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	ヒナギク	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	風景		水彩・紙	
南 薫造	風景二題	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	風景	1909(明治42)	水彩・紙	
南 薫造	郊外の小道		水彩・紙	
南 薫造	河べりから見た風景		水彩・紙	
南 薫造	河と並木		水彩・紙	
南 薫造	平野		水彩・紙	
南 薫造	ドアの前に立つ少女	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	窓辺の少女	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	少女		水彩・紙	
南 薫造	首飾りとリボンをつけた少女	1907-10(明治40-43)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	窓際に立つ子供		鉛筆・紙	
南 薫造	教会堂		水彩・紙	
南 薫造	川べりの家		水彩・紙	
南 薫造	甲板上の鳥籠	1916(大正5)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	雲		水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	夕日		水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	印度アグラの聖地	1916(大正5)	油彩・キャンバス	
南 薫造	インドの建物	1916(大正5)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	写生するインドの若者	1916(大正5)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	子を抱く母	1916(大正5)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	母と子	1916(大正5)	水彩・紙	南建氏寄贈
南 薫造	京城、景福宮建春門	1925(大正14)	油彩・板	
南 薫造	川筋の家	1925(大正14)	油彩・板	
南 薫造	朝鮮の女	1942(昭和17)頃	水彩・紙	南建氏寄贈
石川 欽一郎	台南の裏町		水彩・紙	

展示室3 郡山の作家たち

当館では、「郷土ゆかりの美術」を作品収集の柱のひとつとしています。県の真ん中に位置する郡山市は、経済活動もさることながら芸術文化活動も盛んな地域であり、美術の分野においても多くの優れた作家を輩出しました。

ふるさと「郡山」で育まれた芸術家たちの温かくも鋭いまなざしは、劇的に変化を遂げる社会へ、また、変わらずにそこにある故郷へと向けられ、さまざまな芸術作品の源泉となりました。

ここでは、郡山を拠点に活躍した作家たちによる、想いのこもった力強く、多彩な作品をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
鎌田 正蔵	白日夢	1938(昭和13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田 正蔵	飢える人	1952(昭和27)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田 正蔵	鳥が落ちる('86.4.26の記録)	1986(昭和61)	アクリル・キャンバス	
佐藤 昭一	食事	1952(昭和27)	油彩・板	佐藤昭一氏寄贈
佐藤 昭一	廃坑	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
黒沢 吉蔵	河の附近の風景	1956(昭和31)	岩絵具・箔・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
黒沢 吉蔵	ガスタンクのある風景	1956(昭和31)	岩絵具・箔・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
黒沢 吉蔵	大和箸中	1980(昭和55)	岩絵具・紙	
安藤 重春	虫	1990(平成2)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤 重春	咬	1987(昭和62)頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
芳賀 忠行	虚構の風景一城	1974(昭和49)	油彩・キャンバス	

作者名	作品名	制作年	技法・材質
水田 荘介	青衣の女	1964 (昭和 39)	油彩・キャンバス
青津 清喜	窓際	1950 (昭和 25)	油彩・キャンバス
佐藤 静司	獺	1936 (昭和 11)	木彫
三木 宗策	達磨		木彫 佐藤静司氏寄贈
三木 宗策	根付		木彫 佐藤静司氏寄贈

展示室 4-① 詩と版画

表紙が気になって本を手にしたたり、記憶にとどめた経験はないでしょうか。内容はもちろんですが、かたちある本には、装幀（ブックデザイン）や挿絵、書体にも作り手たちの世界観や美意識が反映されています。版画は古くから本の挿絵という大きな役割を担ってきました。とりわけ詩集に編まれる詩と挿絵には、読み手の想像を誘う深く豊かな関わりをみることができまます。1950年代以降には、詩人と美術家たちの共作による優れた「詩画集」が数多く作られました。詩画集において、版画は詩と呼応するように分かちがたく結びつき、ひとつの作品世界を創造しています。今回は、当館の版（本）のコレクションのなかから、詩と版画に注目します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホルマン・ハント (画) ディエル兄弟 (刻)	アルフレッド・テニスン『詩集』	1859 刊	木口木版/本
アーサー・ジョゼフ・ギヤスキ (画)	S. ベアリング・ゴールド編『童謡集』	1895 刊	木口木版/本
ウィリアム・ブラウン・マクドゥーガル (画)	J. キーツ『イザベラ (バジルの壺)』	1898 刊	木口木版/本
山本 芳翠 (画)	ジュディット・ゴートイエ『蜻蛉集』	1884 刊	リトグラフ/本
田中 恭吉 (画)、恩地 孝四郎 (装幀・画)	萩原朔太郎『月に吠える』	1917 (大正 6) 刊	木版/本
逸見 享	『書窓版画帖十連聚其七 水韻譜』	1941 (昭和 17) 刊	木版/本
恩地 孝四郎	『書窓版画帖十連聚其八 蟲・魚・介』	1943 (昭和 18) 刊	木版/本
駒井 哲郎	『マルドロールの歌』	1952 (昭和 27) 刊	エッチング、アクアチント/本
駒井 哲郎	墓 (マルドロールの歌)	1956 (昭和 31)	エッチング・紙
駒井 哲郎	juin 「球根たち」	1960 (昭和 35)	エッチング・紙
駒井 哲郎	詩画集『人それを呼んで反歌という』 PL5 「鎮魂歌」の別刷	1965 (昭和 40)	エッチング、リフトグラウンドエッチング、 エンブレヴィーイング・紙
駒井 哲郎	詩画集『人それを呼んで反歌という』 PL6 「年齢について」の別刷	1966 (昭和 41)	エッチング、ドライポイント・紙
駒井 哲郎	詩画集『からんどりえ』フロントピース Mai 「斬られた首」の別刷	1960 (昭和 35)	エッチング・紙
駒井 哲郎	juin 「球根たち」	1960 (昭和 35)	サンドペーパーによるエッチング、 エンブレヴィーイング・紙
駒井 哲郎	庭の一隅	1965 (昭和 40)	サンドペーパーによるエッチング、 エンブレヴィーイング・紙
日和崎 尊夫	坂本直明『FURESIMA』	1980 (昭和 55) 刊	木口木版/本
柄澤 齊	山崎栄治『鑿』Ⅲより「花鳥風月」	1981 (昭和 56) 刊	木口木版/本
柄澤 齊	山崎栄治『鑿』Ⅳより「深夜Ⅰ」	1982 (昭和 57) 刊	木口木版/本
秀島 由己男	高橋睦夫『静物考』	1985 (昭和 60) 刊	メゾチント/本
ヘンリー・ムーア	オーデン『詩集』	1973 刊	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォルグの詩 (A 版)』	1973 刊	シルクスクリーン・紙/ポートフォリオ

展示室 4-② うつわにみる東洋憧憬

ここでは、クリストファー・ドレッサー (1834-1904) と佐藤潤四郎 (1907-1988) の作品を中心に、彼らがどのように日本や東洋の美に影響を受けたのかを探ります。

イギリス人のドレッサーは、工芸分野でジャポニスムの潮流を先導した人物です。「龍や波、花などを抽象化した装飾文様には、信仰や願いが込められており、そこに日本人の自然観が表れている」と彼は考えました。自身の作品に日本的な意匠を取り入れつつ、西洋的感覚とうまく調和させています。

郡山出身の佐藤も、東洋由来の仏教世界を近代的に表現しました。「仏足跡」は、釈迦の足の裏の形を刻みつけた石「仏足石」にインスピレーションを受けた、佐藤得意の題材です。この不思議な図様を、ガラス素材の特質を十分に生かすことで、神秘的なイメージへと仕上げることに成功しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
バーナード・リーチ	山水	1968	墨・紙	
クリストファー・ドレッサー著	『日本—その建築、美術、工芸』	1882	本	
佐藤 潤四郎	水指 (カットグラス)	1986 (昭和 61)	ガラス/型吹き・カット	
佐藤 潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤 潤四郎	水指 (魚)	1986 (昭和 61)	ガラス/型吹	
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	硯屏・いのしし	1966 (昭和 41) 頃	ガラス/サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤 潤四郎	龍文花器		ガラス/宙吹き・グラヴェール	福永香氏寄贈
佐藤 潤四郎	植物文瓶		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤 潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 (昭和 59) 頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹、サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	舍利器 (カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット融着	
佐藤 潤四郎	舍利器		ガラス/宙吹・気泡封入、プランツ	
佐藤 潤四郎	舍利器 (玄奘三蔵院型バリエーション)		ガラス/宙吹・カット	
佐藤 潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー (控) No.1	1984 (昭和 59)	ガラス/宙吹・プランツ、雲母封入	
佐藤 潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器 (控) No.1	1980 (昭和 55)	ガラス/宙吹・カット	
佐藤 潤四郎	舍利器 (西塔型バリエーション)		ガラス/宙吹・エッチング、グラヴェール	
佐藤 潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利小容器 (試作)		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤 潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利器 (試作)	1978 (昭和 53)	ガラス/宙吹・グラヴェール	
浜田 庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	
仁阿弥 道八	刷毛目鉢	19世紀 (江戸)	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	緑釉人物文扁壺	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	緑釉龍波濤文水差	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	黄釉竹節型小皿	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (青海波)	1879-1882 頃	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器	
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892-95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892-95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵椿文龍花瓶 (一対)	1886	陶器	
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器	
クリストファー・ドレッサー	染付鳥文壺		磁器	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
笠置 季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント
●2階展示ロビー			
清水 多嘉示	フランスの女	1927 (昭和 2)	ブロンズ
舟越 保武	少女	1956 (昭和 31)	砂岩
細川 宗英	道元	1988 (昭和 63)	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント
三坂 耿一郎	女童 (めわらべ)	1974 (昭和 49)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ